

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立御模小学校

1 自己評価書

教育目標	心豊かでたくましく生きる児童の育成
基本方針	(1)個性の尊重と伸長を基盤とし、地域との自然や人々とのかわり合いを通して、豊かな心を育み、心身ともにたくましい児童の育成に努める。 (2)児童・保護者・地域から信頼される、安心で温もりのある学校づくりに努める。 (3)基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、個々の児童の可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善・克服するための適切な指導や支援に努める。
本年度重点目標	(1) 家庭や地域と連携した、地域とともにある学校づくりの推進 (2) 生きる力を育むための特色ある学校経営の推進 (3) 現職教育の充実と活性化

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		
			・具体的な対策の実施		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	C	
・児童生徒アンケート			A		
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・児童生徒アンケート	A		
(成果と課題) 清満小学校との交流学习や遊子小学校とのリモート交流を行うことができた。また、地域の自然や人材を生かした学習も積極的に実施できた。固定されたメンバーでは、対話的な授業展開が難しいため、今後も積極的に交流学习を取り入れて行かなければならない。家庭における読書の取組について今後も積極的な啓発をしていかなければならない。					
(改善策等) 交流学习の進め方を研修し、近隣の学校との交流を積極的に取り入れていく。今後も、地域の自然や人材を活かした地域学習に努め、地域を誇りに思う児童を児童の育成に努める。読書活動の充実については、児童の興味・関心に応じた本の紹介や、親子読書、ノーブルーライトデーを設定するなどいろいろ取組を実施する。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
・児童生徒アンケート		A			
・保護者アンケート		A			
③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	A	
		・児童生徒アンケート	A		
		・保護者アンケート	A		
④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B	
		・児童アンケート	B		
	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	B	
		・児童アンケート	B		
(成果と課題) 自己肯定感が「1」の児童が3人いること、自己有用感が「2」の児童が1人、「1」の児童が1人いることが課題である。学校において、一人一人が活躍できる場の設定に努めたい。また、地域の方との多様な交流活動や体験活動により、誰かの役に立てることや支え・支えられている実感を持たせたい。称賛することを基盤とした教育活動を展開していきたい。					

(改善策等)
 児童の頑張っていることや努力していることを認め励まし、温かい言葉掛けをすることで児童の自己肯定感を高める。また、一人一人の活躍できる場を積極的に設定し、自己有用感も高める。スモールステップで目標を設定させ、目標を達成できた喜びを体感させていく。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題) ワーク・ライフ・バランスの項目の評価が低い。仕事にやりがいを持って日々熱心に取り組んでいるが、勤務時間が長くなりがちなのが原因である。小規模校のため一人一人の業務量が多く、業務改善にも限界がある。サポート体制充実の評価が高いのは、教職員が互いに声を掛け合い、報告・連絡・相談も確実にやっているからだと考える。教職員一人一人の業務量が多く、勤務時間内に仕</p> <p>(改善策等) 本校の教員は、多くの業務を担当しているが、一人で抱えることなく、全職員でサポートし合うことで負担軽減を図っていく。優先順位を付けた取組、効率を考えた仕事をしていかなければならない。保護者や地域の方との連携を強化し、業務負担の軽減に努める。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・地域アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題) 学校運営協議会の取組の「見える化」を図らなければならない。ホームページの更新は、毎日2回行ったが、情報発信についての保護者評価が低くなっている。学級での様子を詳しく知りたいという希望がある。</p> <p>(改善策等) 学校運営協議会の取組の様子を学校通信で、保護者や地域へ発信していく。また、情報発信については、学校ホームページを活用して今後も継続していく。学級での様子を知らせるために、学級通信の発行を積極的に行う。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満